

---

# 東方真不死鳥伝

るーか

---

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

## 注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

### 【小説タイトル】

東方真不死鳥伝

### 【Nコード】

N1905Z

### 【作者名】

るーか

### 【あらすじ】

青年は出会う。

自分の運命を変える少女と

この小説はオリ主、最強系、原作崩壊など色々な要素が含まれます。  
それが嫌な方はブラウザバックをお願いします。

代零話 昔話（前書き）

この小説は独自解釈や独自設定、キャラ崩壊等がありますので、嫌な方はブラウザバックを推奨します。

## 代零話 昔話

昔々ある所に何の変哲も無い村がありました。

その村から少し離れた所に、不知火灰しんぷいしと言う青年が住んでいました。

齡は十九前後と言ったところでしょうか、その青年の髪は黒、目は朱あかと言った、少し変わった青年が住んでいました。

不知火はある能力ちからを持っていました。

そのため、村から離れた場所に住み、村に襲ってくる妖怪を倒していました。

彼が村人に対するせめてもの償いでした。

彼が生まれる時に彼の母親は体の中から炎が吹き出し、見るも無残に燃え尽きました。

その母親が燃えた灰の上に不知火灰は傷一つ無い様子で座っていました。

母親を殺した我が子を殺そうと父親は幼い不知火の首を絞めて殺そうとしました。

ですがまた、父親も母親と同じように燃え尽きてしまったのです。

その様子を見ていた祖母は恐怖し、『化け物だ』と村中に伝えました。

そして祖母の話聞いた村人は不知火灰を殺そうとしました。

ですがやはり、父親と母親と同じように燃え尽きてしまいました。

そんな時一人の術者が村を訪れました。

其の人物はセイメイと名乗りました。

セイメイは村人に頼まれ、不知火を見に行きました。

不知火の家に入ったセイメイは絶句しました。

赤子一人だけ置いて家には誰もいず、それに加えて床には大量の灰が在ったからです。

そしてその赤子は一人で灰で遊んでいました。

固まっていたセイメイですが、その赤子の内包する霊力を視て先ほどよりも絶句しました。

術者の中でかなりの霊力を持っていたセイメイですらその赤子の一割にも見たなかつたからです。

セイメイは慌てて、封印術をかけました。

ですが、セイメイは封印術をかけ終わり、へたり込んでしまいました。

赤子の力を封印するだけで、セイメイは自分の持っている霊力全て捧げてしまったからです。

そしてその赤子はセイメイの方へと這って着ました。

嬉しそうに、楽しそうに笑いながら。

其の姿を見てセイメイは思いました。

私が育てようと。

そう決心したセイメイは直ぐに村人に赤子と私は住むと言って、村はずれにある古びた小屋を借り、赤子に灰かいと名をつけ二人で暮らし始めました。

十年後

セイメイが死にました。

過労だったのです。

いつも一人で妖怪退治をし、家事をし、村人の治療をし、働きすぎでした。

セイメイが死んでからが大変でした。

セイメイがいた頃ならまだ、灰は普通の子のように接しられていましたが、セイメイが死んだら、直ぐに『化け物』と呼ばれました。

そして、石を投げられました、足で蹴られました、家を荒らされました。

ですが耐えました、自分のやった罪を知っているからです。

それから彼は体を鍛え始めました、村の人たちを護るために、自分がやった罪は赦されなければ、それでも償いたいから。

そうして何年か過ぎ、灰は十九になりました。

妖怪と戦い続けている彼は出会いました。

これから彼の運命を変えるであろう少女に

代零話 昔話（後書き）

真不死鳥伝どうでしょうか。  
零はガラツと変えて見ました。

どうぞこれからもよろしく願います。

感想、誤字等ありましたらどんどんください。

## 代巻話 始まりの日（前書き）

この小説は独自解釈や独自設定、キャラ崩壊等がありますので、嫌な方はブラウザバックを推奨します。

## 代巻話 始まりの日

リンリンと鈴の音が灰の頭に響いた。

その鈴の音はセイメイが残した結界であった。

結界は村全体を覆っており、その中に妖怪、神などが入ると知らせる感知用結界であった。

「さて、いくか・・・」

オレは赤い和服の上に黒い羽織を羽織って結界が示した場所にゆっくりと行った。

反応は弱い、相手は雑魚と考えてまず相違ないだろう。

そう思い、今日の昼飯の献立を考えていると反応が在った場所についていたようだった。

「こいつは・・・」

其処にいたのは、まだ幼く見える少女であった。

驚いたのは其処ではない、その少女は妖怪ではなく神の一種であったからであった。

尚且つその神は消えかかっているようであった。

「おい、其処に倒れている神様。」

反応がないな・・・

全く、何だっけ言うんだよ。

雑魚妖怪だと思つて着て見れば消えかけている神様だしよ。

はあと一つため息を漏らすと灰はその神様を背負った。

「はあ・・・はあ・・・」

私はもう駄目なのでしょうか・・・

まだまだ、やり残した事は沢山あると言つのに。

私と言う地蔵が人々に忘れられて何年でしょう・・・

最後に来てくれたのは、あのセイメイと言う女性でしたね。  
懐かしいです。

それに、セイメイには息子がいるみたいでしたね。

私に手を合わせて息子の幸せを願うんですから・・・

「もう・・・駄目・・・ですね・・・」

限界だった。

忘れ去られた幻想は、消え行くのみである。

もっと後の時代ならば、受け皿の土地があるかも知れないが、今はまだ無い。

何故なら、世界には幻想が溢れているからだ。

そこらには妖怪がいるし、ヒトの中でも特異な才能を持った者もいる。

そんな世界に忘れ去られたモノの受け皿があるのだろうか。

答えは否だった。

取り合えず、布団で寝かせたわけだが、どうすればいいんだろうか。相手は神で消えかかっている。

・・・わかん。

「こんなとき、セイメイがいればな・・・」

いない者を思っても仕方が無い。

そう割り切ると灰は寝かせている部屋に向かった。

ガラツと戸を開けると布団の中で寝ていた神様は起き上がっていた。先ほどよりも顔色は回復した様だったが、まだまだ本調子とは呼べなさそうであった。

「目、覚めたのか。」

「はい。これは貴方が？」

「まあな、さすがに倒れてる女の子は見捨てる事は無理だって、たとえそれが神様でもな。」

「な!？」

少女は心底驚いたような表情をしたが、直ぐに冷静な表情に戻った。

「そう……ですか。有難うございました。見ず知らずの私を助けていただいて。」

「いやいや、気にしないでくれよ、オレの自己満足だしさ。」

「そんなわけには行きません!恩を受けたならば恩で返さなければ!」

「そ、そうか……」

少女の激しい剣幕に少々たじろいってしまった灰だった。

「まあ、家には何日でもいていいからな。」

「いえ、迷惑になりますから、直ぐにでも……ッ」

少女はそう言って立ちあがろうとしたが、やはり回復していないのか、体が思うように動いてなかった。

這ってでも出て行きそうな雰囲気を感じた灰は即座に切り出した。

「いてくれた方が助かるんだ、最近誰とも話して無くてさ。話し相手がほしかったんだよ。」

「本当に良いのですか?」

「こつちからお願ひするよ、オレは灰だ。苗字はまだ決めてない。」

「私は四季映姫です。これからお世話になります。」

「映姫か、これからよろしく。」

「よろしく願います灰。」

「じゃあ、なんか用があったら言ってくれ。それと風呂が沸いてるから入ってくれ。」

風呂場はここを右に曲がった直ぐにあるからな。と灰はそう残して映姫がいる部屋を出て行った。

「不思議な人ですね。」

そしてどこことなくセイメイに似ている気がしますね。

## 代巻話 始まりの日（後書き）

無印と真の違う点を紹介します。

灰の弱体化があります。

具体的なのは本編で。

映姫と一緒に旅に、育ての親がセイメイと言う女性と言うところですね。

後は、そうですね、まだきまってない感じですね。

感想有難うございました。

DKさん

零話は過去話でしたので童話風に見ました。

心情の描写ですか、頑張つて増やそうと思ってるんですが、やはり説明文の方が多くなってしまいますね、頑張ります！  
応援よろしくお願いします！

ではまた次回

感想など待ってます。

## PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能<sup>たんのう</sup>してください。

---

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。  
<http://ncode.syosetu.com/n1905z/>

---

東方真不死鳥伝

2011年12月10日02時50分発行